

本校は、創立63周年を迎えました。卒業生の総数は、9246名を数え、多方面で活躍されています。

さて、1945年、広島、長崎に相次いで原子爆弾が投下され、その後まもなく終戦を迎えました。多くの町が焼け野原となり、復興が始まったばかりの1947年に、小学校6年、中学校3年という現在の義務教育制度が確立しました。

この年、ここ飯豊町においても、豊川村立豊川中学校、豊原村立豊原中学校、添川村立添川中学校、そして、南置賜郡中津川村立中津川中学校が開校したのが本校誕生のルーツとなります。当時は、敗戦後の混乱期の中で、学ぶための教室が足りなかったり、教員免許状を持った先生の数が十分でなかったりと課題が山積みでした。しかし、かねてからの悲願であった中学校がつくられたことにより、地域の方々から大きな期待が寄せられました。そうした期待感は、各学校の「校歌」の歌詞に込められています。そして、その時々の困難に、生徒と教職員、そして地域が一丸となって立ち向かい努力を重ねてきた歴史が、学校にはあります。ですから、皆さんはその伝統を、先輩方からしっかりと受け継ぎ、後輩に受け渡していく役割を担っています。

この創立記念式は、学校の誕生日を祝うとともに、本校に寄せられた地域の方々からの期待や、本校を巣立った先輩方に思いを馳せる日でもあります。そして同時に、現在学校で学ぶ私たちが、それぞれに自分の姿を見つめ直し、決意を新たにする日でもあります。

先週までみなさんは、運動会スローガン『疾風』のごとく新たな風を飯豊中学校に吹き込ませようと努力を重ね、実行委員を中心に見事な運動会を創りあげ、全校生





の絆を深めました。そして、おととい、運動会を振り返り来年度につなぐための拡大実行委員会が開催され、活発に意見が交わされました。全員分のまとめの用紙を読ませてもらいました

ので、いくつか紹介します。

実行委員長は、「全体を見て、何が良くて何が悪いのかを判断できるようになった」と振り返っていました。また組頭は、「チームをまとめることの大変さやリーダーがいることの大事さがわかった」と実感を込めて書き綴っていました。副実行委員長兼評価部長は、「呼びかけができるようになった」と、また、式典・広報部長は、「自分の意見を言えるようになった」と自分たちの成長を振り返っていました。そして実行委員のほとんどが、各組や全校生としての団結力がアップしたことを、運動会の成果として挙げていました。



こうした言葉からも、飯豊中生である皆さんの確かな成長を実感できることは本当に嬉しいことです。人は為すことによって学ぶのです。これからも恐れることなく挑戦を続けてください。

昨日まで、租税教室や人権教室後に書いた皆さんの作文を読ませてもらいました。一人ひとりが予想以上にしっかりとした考えを持ち、思春期の悩みを抱えながらも、着実に自立への階段を登っていることに感激しました。そんなみなさんを、私も心から応援したいと思っています。

最後に、みなさんを育み見守ってくれるふるさと飯豊町や家族にあらためて感謝するとともに、自律を目指して努力し

ていく自分自身に、あきらめずにエールを送り続けることを
誓い合い、式辞といたします。

令和3年9月1日

飯豊町立飯豊中学校

校長 小野 明彦